

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-151	13-302	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Modafinil modulates resting-state functional network connectivity and cognitive control in alcohol-dependent patients. モダフィニルはアルコール依存症患者における静止状態機能的なネットワーク連結性と認知的コントロールを調整する。		
執筆者		
Schmaal L, Goudriaan AE, Joos L, Krüse AM, Dom G, van den Brink W, Veltman DJ.		
掲載誌		
Biol Psychiatry. 2013 Apr 15;73(8):789-95.		
キーワード		
モダフィニル、アルコール依存症、認知的コントロール		
要 旨		
<p>背景 慢性アルコール中毒では、認知的コントロールの機能障害を伴う。認知的コントロールは、外部的に正しく方向付けされた実行機能化と内部的な思考過程に関係する内因的な大規模な脳ネットワークの間の相互作用を通して媒介されているようである。これらの機能的な脳ネットワークの間の相互作用を改善することは、治療の重要な目標となりうる。従って、本研究ではアルコール依存症患者で認知を高める薬モダフィニルの効果を、ネットワーク内で、そしてネットワーク間で休止状態の機能的連結性と認知的コントロール機能を調査することをめざした。</p> <p>方法 二重盲検プラセボ対照交差法の研究で、静止状態の機能的磁気共鳴映像法と Stroop 作業を、アルコール依存的な患者 (n = 15) と健常対照被験者 (n = 16) で使用された。ネットワーク内およびネットワーク間の機能連結性は、独立成分分析法と機能性ネットワーク連結分析法の組合せで算出した。</p> <p>結果 モダフィニルは実行ネットワークとデフォルトモードのネットワークの間に、陰性のカップリングを有意に増加させた。そして、それはモダフィニルによって改善されたアルコール依存症患者の認知的統制と関係していた。</p> <p>結論 : 本研究の結果は、モダフィニルが認知的コントロールの基礎をなしている大規模な脳システムの内因的機能的関係を目標とすることによって、その効果を少なくとも部分的に及ぼすことを証明する。従って、本研究はアルコール依存症の処置の補助的手段としてモダフィニルを使用するための神経生物学的な合理性を示した。しかし、この結果を立証するために今後の臨床研究が必要である。</p>		